

公益財団法人日本宇宙少年団 平成 26 年度事業計画書

1. はじめに

公益財団法人日本宇宙少年団((公財)YAC と省略します。)は、1986(昭和 61)年に財団法人として発足し、2012(平成 24)年 8 月に、公益財団法人として再出発いたしました。

(公財)YAC は、当面の活動の基本方針を次の通りとしました。

(平成 24 年度事業計画の「はじめに」から抜粋)

自然環境の保護や生命の保全など、様々な問題が人類にとって緊急な課題となっており、YAC 活動を通じて、次世代を担う青少年及びその家族に、これらの課題について考える重要性を伝えること、を目的として

⇒青少年の宇宙への夢を育む人材育成の推進のため、全国の YAC 連携団体を拠点として、地域・地区の宇宙教育活動を支援する。

⇒青少年の資質の向上を図るため、YAC 活動の内容を高め、社会からの高い評価を維持する。

⇒YAC の活動を継続的に促進するために、これまでのノウハウを集結し、業務の効率化を図り、経営資源の向上を目指すとともに、自主事業への賛助金等の拡大によって、財政基盤の確立を図り、経営の安定化を目指す。

YAC 活動の現状と今後の取り組み

日本全国で活動する分団、地方本部、支部等の YAC 連携団体(以下分団等といいます。)は、YAC 活動を担う中核的な拠点であり、今後の YAC 活動の発展のためには、更なるその活動の向上と組織の強化が欠かせません。

このためには、全国の分団等が一斉に同じ活動に取り組むなど同じ目標に向かって成長し、多くの仲間を得ることにより知識と活力を得て、YAC は宇宙と科学に関する青少年の人材育成を行う優れた全国組織を目指すべきだ、とされました。(2013 年(平成 25)年)11 月の連携団体長会議)

活動委員会では、このような目標を達成させるために YAC の全体活動プログラムを提案し、活動の輪を広げ活動を展開することが重要であるとして、その検討を行っています。

(公財)YAC の現状と今後の取り組み

(公財)YAC は、昨年度、将来にわたって継続的に公益法人としての使命を果たせるよう、運営体制等の抜本的な削減を行い、経営基盤の立て直しを図りました。

この中では、人件費の削減、事務所移転を含む大幅な管理運営の効率化を行い、公益事業の継続が可能な極めて簡素な運営体制を整備いたしました。

他方、(公財)YAC は、YAC 活動を推進する基盤組織であり、今や、運営の効率化の段階から、事業の拡大・発展及び YAC 活動のさらなる発展を目指す段階に入りつつあります。

平成26年度の取り組み

今年度は、特に、連携交流事業について、現在、活動委員会で検討中の YAC 活動を発展させるための全体活動プログラムを踏まえ、その準備に着手いたします。

また、平成 25 年度に引き続き、次の公益事業を進めます。なお、事業目的に照らし、今年度は、下表のとおり、個別事業の分類を見直しました。

<個別事業の分類見直し表>

| 事業区分 | 平成 26 年度事業計画 | 平成 25 年度事業計画 | 備考 |
|----------------------|--|--|-----------------------------|
| ① 宇宙及び科学に関する知識の普及啓発 | ・はやぶさ2等普及啓発 ・YAC ウェブページによる情報提供 | ・はやぶさ2普及啓発 | |
| ② 青少年の連携及び交流の促進 | ・分団との連携協力 ・連携団体活動推進 ・宇宙教育指導者セミナー | ・種子島スペースキャンプ ・筑波スペースキャンプ ・ミッション X ・白熱宇宙道場 ・若田飛行士との交信 | 分団との連携交流を重要事業として取り組みます。 |
| ③ 宇宙及び科学に関する青少年の人材育成 | ・種子島スペースキャンプ ・筑波スペースキャンプ ・国際交流@ミッション X ・国際交流@APRSAF ・衛星データ利用体験学習 ・宇宙情報誌ソラとび発行 ・宇宙教育テレビ | ・講師派遣 ・衛星データ利用 | スペースキャンプでは、子どもたちの成長を目標とします。 |
| ④ その他 | ・連携事業 ・講師派遣等 | ・宇宙教育テレビ ・宇宙情報誌ソラとび発行 | |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・YAC ウェブ運営 ・分団との連携協力、支援 ・連携団体活動推進 ・連携事業 ・講師派遣等 | |
|--|--|--|--|

2. 平成26年度に行う事業

(1) 宇宙及び科学に関する知識の普及啓発事業

打上げが予定されている「はやぶさ2」等を学習テーマとしてスペースキャンプなどで取り上げる、ウェブページで宇宙及び科学に関する情報を紹介することにより、子どもたちに宇宙や科学技術への興味や関心を持ってもらいます。

YACホームページの運営と情報提供等

青少年を対象に宇宙及び科学に関する知識の普及啓発の促進、そしてインターネットを利用した宇宙教育活動の推進を目的としてウェブページでの情報公開を行います。

わかりにくい・興味を持ちにくい事柄は説明を加え、子どもたちが安心な「YAC」のホームページを見て宇宙と科学技術の興味と関心を持つ状況を目指します。

(2) 青少年の連携及び交流の促進事業

全国の分団等との連携を図り、YAC 活動を推進します。

また、活動委員会において検討中の、YAC 活動を推進するための全体活動プログラムの準備に着手したいと考えております。

日本宇宙少年団(YAC)分団等との連携協力

新規分団の結成や活動内容に関するアドバイスをを行うほか、分団等と連携して、YAC 全体の活性化に繋がる施策に着手します。

(公財)と分団とで協力して、(公財)のウェブの分団活動紹介のページを維持し、団員管理システムによる団員情報の把握や承認等を行い、分団活動の状況把握等に努めます。

また、(公財)が計画する事業に関して、地域分団に連携協力を要請し、連携の強化を図ります。

連携団体活動推進

YAC 分団等の活動を推進するため、連携団体の全体会合の場として「連携団体

長会議」を年1回開催し、活動組織相互の情報交換等の場を設けます。

宇宙教育指導者セミナー

社会教育団体活動の指導者育成を目的とするセミナーを、JAXA 宇宙教育センターと連携して全国で開催します。

回数：年6回を目安

参加人数：1箇所あたり30名程度

(3) 宇宙及び科学に関する青少年の人材育成事業

宇宙、科学技術の学習やその楽しさに触れてもらい、子どもたちを育成します。特に、スペースキャンプでは、集団で学習し、生活を共にすることによって、子どもたちを成長させます。

種子島スペースキャンプ

子ども達の夏休みを利用し、ロケット打上げ射場のある JAXA 種子島宇宙センターや科学館の見学、ウミガメ学習やマングローブでのカヤック体験等、種子島の自然や歴史に触れる体験学習を行います。また、種子島の子ども達にも参加してもらい交流を行います。

時期：夏休み期間中(3泊4日)

場所：種子島全域(西之表市、中種子町、南種子町、種子島宇宙センター他)

対象：小学4年生～中学生の YAC 団員及び一般 50名程度

筑波スペースキャンプ

JAXA 筑波宇宙センターの施設見学と特別講義、そしてホンモノの宇宙飛行士訓練施設で模擬訓練体験を行い、初めて出会う多様な年齢の仲間と楽しく学びながらコミュニケーション能力等を学んでもらいます。

また、施設見学等で調べたことや体験したことをグループ毎に発表し合う体験発表会を行います。

これら宇宙開発の現場でホンモノ体験を知ることを通じて、子ども達の宇宙への興味・関心を高め、将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的とします。

時期：夏休み期間中 1泊2日あるいは2泊3日 (2回実施)

場所：JAXA 筑波宇宙センター、つくばエキスポセンター、他

対象：小学4年生～中学生の YAC 団員及び一般 1回 20名～30名程度

国際交流@ミッションXベルギー

NASA(米国航空宇宙局)、ESA(欧州宇宙機関)、JAXA 及び科学者の宇宙飛行士トレーニングを研究している専門家たちが協力し合い、宇宙飛行士の健康管理をモチーフとして児童の健康啓発につなげるために開発された国際的な教育プログラムである、ミッションXの国際イベントに日本代表児童を派遣します。

本国際イベントは、昨年のオランダに続き、今年はベルギーで開催されます。世界の宇宙関係機関を通じて同世代の子ども達が参加し、ミッションXへ挑戦したり、海外の宇宙飛行士との交流、日本代表としての発表、子ども同士の国際交流等を行います(本事業への派遣は今回で3回目)。

時期：平成26年6月 4泊6日

場所：ベルギー・ユーロスペースセンター

対象：小学5年生～中学生のYAC団員及び一般 5名程度

国際交流@APRSAF21 in 日本

水ロケットに取り組んでいるアジア太平洋地域等の同年代の仲間と水ロケット打上競技を通じて宇宙・科学技術の知識を交換したり、国際交流プログラムなどを通じて友情の絆を深めたいという中高生を対象として、2005年よりAPRSAF水ロケット大会(AWRE)が毎年行われています。

今年はAPRSAF-21水ロケット大会(AWRE)が日本で開催されることから、この大会を活用してアジア各国の参加者と日本の子ども達の国際交流を実施します。

本事業では、次世代を担う子ども達が国際交流を通じてコミュニケーション能力や国際感覚を有する人材育成を目指します。

時期：平成26年冬

場所：東京都内

衛星データ利用体験学習

衛星データを利用したほんもの体験学習プログラムの実施や、宇宙教育教材の開発に取り組みます。

宇宙情報誌「宇宙(ソラ)のとびら」の発行・編集協力等

宇宙に関わる様々な分野の方の活動や宇宙への思い、宇宙及び科学に関する最新のニュースや新しい科学の発見などを誌面で紹介し、子どもたちの持つ冒険心・匠の心・科学する心を育むことを目的として、宇宙情報誌の編集協力等を行います。

JAXA宇宙教育センター(発行)及び(公財)日本宇宙少年団(発行・編集協力)の連携により、年4回(6月、9月、12月、3月)発行します。

宇宙教育テレビ

宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせ、放送番組の内容をJAXA宇宙教育センターと一緒に計画し、その情報をインターネット番組で放送・配信します。

番組ではYAC職員が司会者となり、宇宙及び科学技術の専門家による解説を交えて子どもや一般視聴者に向けて、分かり易く紹介していきます。

時期：月に1回程度実施 19時00分～19時45分(予定)

(4)その他の事業

YAC 活動に賛同頂ける団体との連携事業や講師派遣を行います。

連携事業

青少年を対象とした宇宙教育活動や、一般を対象にした宇宙教育の普及啓発の促進を目的として、企業等と連携したイベントや教材開発などの事業を行います。

講師派遣等

青少年や一般を対象に宇宙及び科学に関する知識の普及啓発、宇宙教育の促進を目的に、講師派遣を行います。

以上